ワイドアングル No.188　高齢者も、障害者も、持病のある人もあきらめないで！

思う存分「旅」を楽しもう

日々、病気と向き合っている人や、体に障害があり行動がままならない人は、楽しみに目を向ける余裕をもてないことがある。まして、「旅」など思いもよらないという人は少なくないだろう。しかし、事前に十分な準備をしてちょっとしたサポートを受ければ、国内はもちろん、海外旅行も可能なのである。

要介護の人でも旅に行くことができる!? バリアフリー旅行の専門家に聞く

雄大な景色に出会ったり、異文化と触れ合ったり、その地域特有の食べ物を味わったりできるのが旅の魅力。病気や障害のある人には気分転換になり、その素敵な思い出が療養生活の励みになるだろうが、そう簡単には出かけられない。

日帰り旅行から世界遺産を巡る1週間の海外ツアーまで、「旅をあきらめない」をコンセプトに15年前からバリアフリー旅行を扱っているのは、クラブツーリズム㈱のバリアフリー旅行センター。リフトつきバス使用、歩く距離は短く、重い荷物は運ぶ、60～90分に1度のトイレ休憩などが基本になっている。

「要介護度に関係なく、参加者の体の状態に合わせて行程を変更するなどの対応をしています」と同センターの山田誠さん。

刻み食やペースト食などの要望にも応じる。有料だが、車椅子のレンタルやトラベルサポーター（看護師やホームヘルパー2級以上または外出支援講習の修了生）を依頼することも可能だ。トラベルサポーターの料金は、食事や入浴など要介助の場合バスツアーで1日6000円から、飛行機・新幹線利用ツアーで1万6000円から、海外ツアーは1名分の旅行代金の60%となっている。

↑世界遺産マチュピチュなどの秘境では、現地で医師を同行させるツアーもある（クラブツーリズムバリアフリー旅行センター）

←秩父お遍路のサポート風景（クラブツーリズムバリアフリー旅行センター）

わがままも聞き入れる自分仕様の個人旅行

一方、バリアフリー個人旅行を扱うのは㈱SPIあ・える倶楽部。4年前に設立された特定非営利活動法人「NPO日本トラベルヘルパー協会」のトラベルヘルパー講座修了者を含む約630名の登録者が、同社の介護旅行をサポートする。

トラベルヘルパーの利用料金は、要支援の人で1日2万1000円、食事や排泄のサービスもする要介護1～2で1日2万4150円、おむつ交換や入浴介助が必要な要介護3～5だと1日2万6250円（全て税込み）。トラベルヘルパー分の旅行代金も加算される。

安心だが費用が気になるという人には……。

「たとえば、息子さんと介護を必要とするお母さんが温泉旅行に行った際、入浴介助だけお願いしたいというご要望にお応えできる場合も」と同社の宮下典子さん。旅先の空港から同行してもらうという手を使えば、トラベルヘルパーの飛行機代はかからずに済む。

「旅先での透析、糖尿病食の手配、介護タクシーや車椅子対応の客室手配など、その方のご希望や体の状態で臨機応変に対応します。旅館に介護ベッドを入れてもらった例もあります」（宮下さん）

吸引が必要な人には、看護師の資格をもつトラベルヘルパーを手配して解決する。あるいは、現地の医療スタッフに協力を要請する場合もあるという。

希望や体の状態に合わせた旅行プランの作成を相談でき、アドバイスも受けられるメリットがある。

沖縄・万座毛で雄大な景色を満喫（あ・える倶楽部）

ボランティアが支える視覚障害者の一人旅

情報、そして行動の2大不自由を抱える視覚障害者。29都道府県の33団体が加盟する「全国視覚障害者外出支援連絡会（JBOS：Japan Blind person Outdoor Support association）」は、「いつでもどこでも出かけたいところへ」をコンセプトに、視覚障害者の一人旅を支援する。観光のほか、音楽鑑賞やスポーツ大会への出場・観戦など、外出支援は年間延べ180件。ボランティア活動なので料金は不要だが、スタッフの交通費をはじめ、食費や入場料などの経費は利用者が支払う。

利用したい視覚障害者は、メールか電話で目的地にあるJBOS加盟団体に連絡する。旅の目的や待ち合わせ場所といった細部をすり合わせながら、各団体がボランティアスタッフを手配してくれる。

当日飛行機が飛ばず、別ルートでやっとたどり着いた真冬の宗谷岬。船村徹の歌碑の前で（あ・える倶楽部）

昨年11月末に行われた「第11回JBOSの旅 in 熊野」は、地元和歌山のグループ「レッツ・わかやま」が音頭を取った。難所続きの熊野古道をボランティアの手を借りて歩いた視覚障害者の一人は「空気がきれいで、聖域を歩いていることを肌で感じた」と話す。

十分な準備をすれば病気でも大丈夫

旅行会社やボランティアに頼らなくても、旅は可能なのだろうか。プラン作りの段階で、車椅子用トイレのある旅館やホテルを探したり、介護タクシーを手配するなど、事前の準備さえしっかりしていれば不可能ではない。透析が必要など持病のある場合でも、各地の徳洲会病院をはじめ多くの医療機関で相談に乗ってくれるはずだ。

余裕のあるスケジュール作りをアドバイスするのは前出の宮下さん。普段ベッドで過ごす時間が長い人などは特に、欲張ったスケジュールは禁物だ。車椅子利用の人は、対応のトイレが経路や目的地にあるかどうかもチェックしておきたい。

いかほど？ 気になる海外ツアーの料金は

旅に行く決心はついても、先立つものが足りるのか……。そこで、クラブツーリズムの海外バリアフリーツアーの料金を聞いた。

- 「ドリームフェスティバルinグアム5日間「バリアフリー」」 5/16出発　＊関西空港発もあり（興訪中央病院名誉院長の鎌田實先生と一緒にグアムの舞台を楽しむイベントにご案内）　**15万9000円**
- 「台湾ランタンフェスティバル5日間」 2/26出発（台湾の新年を迎えて開催される灯ろうの祭典など、台湾文化や歴史に触れる旅）　**23万8000円**
- 「チュニジア周遊8日間」 3/26出発（世界遺産カルタゴ遺跡などを巡る旅）　**29万8000円**
- 「ナイル川クルーズ・エジプト古代文明の旅8日間」 3/10出発　**56万8000円**

世界遺産アブシンベル大神殿の前で記念撮影

※全て成田発着、燃油サーチャージ・空港利用料は別途

連絡先　クラブツーリズム㈱ バリアフリー旅行センター　☎03-5323-6915
㈱SPIあ・える倶楽部　☎03-6415-6480
全国視覚障害者外出支援連絡会（JBOS）　メール：office@jbos.jp　URL:http://jbos.jp/

名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科術後の会 ●日帰りバスツアー●

名古屋徳洲会総合病院の「心臓血管外科術後の会」は、平成12年に第1回を開催し、昨年には10回目の日帰りバスツアーを行った。目的地は愛知県蒲郡市の西浦温泉。

患者さんとそのご家族153名が参加した。会の発足以来のメンバーから昨年手術を受けた方まで、患者さんの状態は人それぞれ。体調が万全でないという人も、医師4名、看護師8名、コメディカル（その他の医療専門職種）10名という心強いスタッフに囲まれ、楽しそうな表情で病院から5台のバスに乗って出発した。

到着後はまず温泉で体を温め、宴会場で食事をして交流を深めた。その後、メインイベントである同院の大橋壮樹総長による最新の心臓血管治療に関する講演。誰もが熱心に耳を傾け、積極的に質問をする参加者も多数見られた。

同じ病気を乗り越えた"仲間"と励まし合い、そして最新情報を直接耳にできること。温泉での気分転換とともに、患者さんにとっては何よりのリハビリになったことだろう。「スタッフとして、皆さんの術後のお元気な姿を拝見することが楽しみです。今後も質の高い医療を提供するよう努力していきたいと思っています」と、同院の谷合麻理子MSW（医療ソーシャルワーカー）は話している。